

関西演芸協会とは

関西演芸協会は設立65周年を迎えた所属芸人約260名の団体です。
所属芸人の落語・漫才・諸芸を披露する寄席を開催することで上方演芸の伝統を
後世に伝えていく活動をしています。

寄席の楽しみ

寄席とは、落語・講談・漫才・浪曲・太神楽など、おもしろいお話を聞かせてくれたり、
あっと驚く難しい技などを見せてくれるところ。大阪や東京にはそんな演芸を
一日中、何十人もの方が披露する寄席小屋という場所があります。関西演芸協会
のメンバーも、普段は関西のそういった寄席を中心に様々な場所で活躍しています。
寄席ではいろんな演芸を楽しめますが、やはり最も代表的なものが落語です。

落語には大きく分けて、東京を起点とする「江戸落語」と大阪を起点とする「上方落語」
があります。言葉も《江戸弁》と《大阪弁》に分かれ、それぞれがその発祥から生
まれたと思われる特徴を持っています。関西演芸協会の落語家は上方の落語家です。
もともと上方落語の発祥は大道芸であったと言われています。縁日などで、屋外で人
を集めて語り聞かせながら物を売る商人たちと同じく、道を通る人々の注意を引か
なければなりません。当然の事ながら上方落語は派手で陽気になっていきます。そ
のなごりが現在も「見台」（小机）と「小拍子」として残り、話の節目で小拍子を見
台に叩きつけて音を出し、注意を引き、話題の転換や場所の移動を表現するのに用
いられています。また、動きが派手で着物の裾が乱れるところから「膝隠し」を立
てて膝を隠すという習慣も今もなお残っています。

『百聞は一見に如かず』。今回はそんな落語だけでなく、漫才・太神楽に児童・生
徒による参加コーナーを含めた寄席を皆様にご覧頂きます。

お楽しみに!



知ってますか? ~10月1日は「国際音楽の日」です~

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月
1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」と
することにしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

令和3年度

文化芸術による子供育成総合事業

一巡回公演事業一

関西演芸協会



「文化芸術による子供育成総合事業 一巡回公演事業一」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台
芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、
将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。
事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、
できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



文 化 庁
ぶんかちょう

よ せ かん しょう きょう しつ たのしい 寄席鑑賞教室

らくご ぶたい ざぶとん うえ
落語の舞台はとてもシンプルです。座布団の上の70cm
しほう くわかん せかい すべ えんじや ひょうげんりよく
四方の空間が世界の全てです。それでも演者の表現力
かんきやく そうぞうりよく かせ むげん くわかん
と観客の想像力が重なれば、それは無限の空間へと
ひろがって行くのです。さらに江戸落語と上方落語、
おな わら だんしょう はってん ちが こと
同じ笑いでありながら伝承や発展の違いで、異なる
おもしる はってん ふた わら き くら
面白さへと発展していった二つの笑いを聞き比べて

ください。笑いの向こうに文化が見えます。
かんきやく くわき ふん いき よ ば つく
観客の空気や雰囲気を読み、その場で創りあげてい
いっかいせい げいじゆつ らくご だいほん おなじ げい にど
く一回性の芸術、落語。台本はあっても同じ芸は二度
み でき
と見ることは出来ません。

その日、その時、その場に集った、皆さんのためだけに
つくられた寄席芸の神髄をお楽しみください。



よ せ ばやし 寄席囃子

えど じだい かみかた はつしょう い よ せ もち
江戸時代に上方で発祥したと言われ、寄席で用いられる
はやし ぜんばん さ らくご か どうじょう な でばやし
囃子全般を指します。落語家の登場に鳴らす「出囃子」や、
はなし なか こうか おん つか
囃子の中の効果音やBGMとして使われる「はめもの」などがあ
ります。主に三味線・笛・太鼓・銅鑼などで構成されています。

らくご はめもの落語

らくご らくご えん らくご か かつ ぐち あ
はめもの落語とは落語を演じる落語家の語り口に合わせて、
はやし かつ ころか おん えんそう じょうけいひょうしや かみかたとくゆう らくご
囃子方が効果音を演奏し、情景描写する上方特有の落語で
す。賑やかで華やかな臨場感溢れる落語をお楽しみください。

いろ もの 色物

よ せ
寄席において、落語と講談以外の演目を指します。むかし寄席
のめぐりで落語・講談の演目を黒文字で、それ以外の演目は
しゅうねんぶか ぼ ぎつね しちどぎつね し うら か たびびと
朱色などの色文字を使って書かれていたことに由来します

へいあんじだい しんねん いわ ことほぎ げいのう
漫才(まんざい): 平安時代に新年を祝う言祝の芸能であった
「千秋万歳」が笑いを主とする芸能に変化していきました。

えどじだい まんざい こうぎょうか い
江戸時代には「万才」として興行化されたと言われています。

もと しんぶつ ほうのう ま
太神楽(だいかぐら): 元は、神仏への奉納として舞われてきた
だいかぐら だいどうげい えんげいせい たか だんしょう
太神楽が大道芸として、より演芸性を高め伝承されてきました。
はな ことづぐ ことほ ほん ころい だんとうげいのう
華やかな小道具を使って言祝ぐ、日本古来の伝統芸能です。

しゅつ 出	えん 演	えん 演 目 ・ 内 容
かみがたらくご 上方落語(はめもの) かつら 桂 ぶく 福 だん 治 他	よ せ はやし きょうしつ 「寄席・お囃子教室」 よ せ らくご しょうかい しゃみせん たいこ ふえしょう ひょうしぎ 寄席・落語の紹介や、三味線・太鼓・笛・鉦・ドラ・拍子木など、エピソードを まじ よ せ じゆんぼん したが えんそう かいせつ 交え、寄席の順番に従って演奏、解説をいたします。	
かみがたらくご かいせつ 上方落語・解説 かつら 桂 あ 阿 か 枝 他	「漫才」(色物) かみがたえんげい とくちょう い まんざい たの 上方演芸の特徴とも言うべきおしゃべり漫才をお楽しみください。	
いろ もの 色物 漫才(まんざい) シンデレラエクスプレス 他	かみがたらくご 「上方落語」 ももたろう たいらぼやし どうぶつえん はつてんじん などなど かみがたらくご にゆうもんへん い 「桃太郎」「平林」「動物園」「初天神」等々…。上方落語の入門編とも言うべき らくご しょうかくせい ちゅうかくせい あ はなし 落語を、小学生・中学生に合わせてお囃いたします。	
太神楽(だいかぐら) ラ ッ キ ー 舞 他	おおざり さくぶんはっぴょう じどう せいとさんか 「大喜利 アイウエオ作文発表」(児童・生徒参加コーナー) ワークショップで学び、考えた、アイウエオ作文の児童・生徒の発表コーナーです。	
なかい きゅうけい 仲入り ~休憩~	きょう まんざいし 「あなたも今日から漫才師」 ワークショップで 学び、考えた、漫才の児童・生徒の発表コーナーです。	
はやし お囃子 三味線(しゃみせん) は や し や 律 子 他	だいかぐら いろ もの 「太神楽」(色物) だいかぐら にほん だんとうげいのう ふだん め こと かわいい わざ 太神楽は日本の伝統芸能です。普段あまり目にする事のない華麗な技の かずかず らん 数々をご覧ください。	
太 鼓 ・ 銅 鑼 (たいこ・どら) かつら 桂 こ 小 うめ 梅 他	らくご しちどぎつね 「はめもの落語(七度狐)」 いちど め あ あいて しちどつづ ぼ 一度ひどい目に合わされたら、その相手を七度続けて化かすという しゅうねんぶか ぼ ぎつね しちどぎつね し うら か たびびと 執念深い化け狐「七度狐」に知らないうちに恨みを買ったふたりの旅人 の お話 だす。旅人が狐にどのようにだまされていくのか注目してください。	

